

第三者意見

向社会性研究所 主任研究員 社会学博士
小樽雅章氏



早稲田大学第一文学部卒業。関西大学大学院社会学研究科博士課程修了。「暮しの手帖」編集者、ダイエー取締役秘書室長、兵庫エフエムラジオ放送(現Kiss-FM KOBE)社長等を経て現在、企業やNPO等の組織の利他行動の社会心理をリサーチする向社会性研究所主任研究員。

どんな企業でも、営業成績などの目先の目的達成が優先され、社員たちは自分の今の仕事が、会社の本来の目的に合致しているのか、何のために働いているのか、見失いがちです。そんなとき、前方に光を照らし、進むべき道筋を示してくれる何かが必要です。

それは何か、企業理念です。このレポートのP.3をみると、双日グループには世界中に95もの拠点がおり、17,524名もの人々が働いているそうです。製造業などの場合、同じ工場と同じ製品製造のために働き、同じ目標や価値観を共有しやすいのですが、総合商社のように世界中に散らばって一人や少人数で、それぞれ異なる目的で働いているような場合、企業理念は特に大切です。

双日グループの企業理念「双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心をつなぎ、新たな豊かさを築きつづけます。」この理念は双日グループの世界中のステークホルダーや社員たちに、自分たちの存在意義と役割を示す双日の旗印なのです。

それに加えて、2009年4月に、「企業理念の地道な実践を通じ、企業活動と社会・環境の共存共栄を目指します。」という「双日グループCSRポリシー」を制定したのは、実はとても重要なことだと思います。理念の実行にはかならず具体的な行動が伴います。そして、この行動が得てして理念を逸脱して一人歩きしてしまうことが起こりがちだからです。

CSRポリシーは、単なる掛け声ではない、双日グループ

17,524名一人ひとりの活動の行動規範なのだ、と、加瀬社長はトップメッセージ(P.5)で、次のように語っています。

「双日グループが世界でさまざまな企業活動を進めるにあたり、CSRを経営の基軸とすることを宣言するとともに、その方向性を明確にし、グループ全体で共有、実践するために制定しました。」

この宣言は、非常に重要です。国連グローバル・コンパクトへの参加(P.6)とあいまって、双日グループがグループの末端やサプライチェーンに至るまで、環境や人権、労働管理、資源保護や賄賂防止に至るまで、誠実に行動対処することを公にしているからです。

この企業理念とCSRポリシーの下に、誠実で公正な活動を実行し続けられれば、双日グループは世界のどこに行っても、信頼され歓迎される企業になるでしょう。

問題は、その実行です。世界中に散らばって働く社員一人ひとりが、このポリシーを真に理解し行動してくれるのでしょうか。

実は社員座談会(P.9-11)を読んで、社員の一人ひとりが、自分の仕事が社会や地域に貢献していることを実感し、それを誇りとしていることを感じました。ここに登場する社員がすべての社員の意見を代表しているとは思いませんが、この発言からは、双日のさまざまな事業が企業理念に合致し、社員のやりがいを引き出して日常業務に反映させていることがうかがわれ、社員のほうが現場でCSRポリシーを体得しているのではないかと感じました。

第三者意見をいただいて



CSR委員会 委員長
専務執行役員
谷口真一

双日グループが企業理念、CSRポリシーのもと誠実な企業活動を実践することへの期待とその難しさについてご指摘をいただきありがとうございます。

総合商社の多岐にわたる活動において企業理念、CSRポリシーを一人ひとりの活動に落とし込むことはご指摘のように容易ではありませんが、同ポリシーを制定し、国連グローバル・コンパクトに

加盟した趣旨を双日グループ全体に浸透させるとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを基に具体的なCSRへの取り組みを重ね企業活動の質をさらに改善してまいります。

また、社員が誇りをもって活動を行っているように感じられたというご意見をいただきました。今後も風通しのよい企業風土を重視し、一人ひとりの誇りを支え、企業理念を地道に実践してまいります。